

令和4年度第49回宮崎県高等学校総合体育大会 第65回宮崎県高等学校登山競技大会 成績

番号	学校名	体力	歩行	装備5			設置・撤収	炊事5	天気図	課題テスト12				記録・計画4		読図10	マナー 自然保護	計100	チーム 順位	学校 順位	備考	
		40	10	装備	服装	ザイル	5			自然観察	救急	救急実技	気象	計画書	記録書							
		40	10	3	1	1	5			4	4	3	1	4	2							2
男子	11	延岡工業A	31.3	9.0	1.7	0.8	0.4	0.8	4.0	0.8	1.3	1.9	0.4	1.8	0.0	0.2	7.0	3.7	65.1	17		
	12	延岡工業B	38.8	5.0	1.7	0.8	0.4	1.7	4.0	0.4	1.8	2.1	0.2	2.3	0.0	0.0	6.5	3.4	69.1	16	7	
	21	宮崎大宮A	40.0	10.0	2.1	1.0	0.8	5.0	5.0	2.8	3.7	2.9	0.8	4.0	2.0	2.0	9.0	5.0	96.1	1	1	
	22	宮崎大宮B	39.5	8.0	3.0	1.0	0.4	4.4	5.0	3.8	3.5	3.0	0.8	3.8	2.0	2.0	9.0	4.7	93.9	3		
	23	宮崎大宮C	40.0	9.0	1.7	1.0	0.4	4.1	5.0	3.8	3.1	3.0	0.6	3.8	2.0	2.0	9.5	5.0	94.0	2		
	24	宮崎大宮D	39.9	10.0	3.0	1.0	0.4	4.1	5.0	3.0	3.1	2.9	0.6	3.0	2.0	1.8	9.5	4.5	93.8	4		
	31	宮崎西A	40.0	9.0	3.0	1.0	0.8	4.1	5.0	3.2	3.1	2.6	0.8	3.5	0.8	1.6	8.5	4.5	91.5	6	3	
	32	宮崎西B	40.0	9.0	3.0	1.0	1.0	2.6	5.0	3.8	3.8	3.0	0.8	4.0	1.2	2.0	6.0	5.0	91.2	7		
	33	宮崎西C	38.6	8.0	2.2	1.0	1.0	2.0	4.5	2.6	3.1	2.7	0.2	4.0	0.8	1.4	8.0	5.0	85.1			オープン
	41	都城泉ヶ丘A	40.0	9.0	2.5	1.0	0.0	2.3	4.5	3.0	2.5	2.2	0.2	3.8	1.2	1.8	8.5	4.7	87.2	9	5	
	42	都城泉ヶ丘B	39.6	9.5	2.5	1.0	0.4	2.9	4.5	2.4	2.0	1.6	0.4	3.5	1.2	1.2	7.0	4.2	83.9	10		
	51	都城工業A	40.0	10.0	3.0	1.0	1.0	4.1	5.0	3.6	3.4	2.0	0.8	3.3	1.2	2.0	8.5	4.2	93.1	5	2	
	52	都城工業B	20.0	9.5	2.5	1.0	1.0	3.2	3.5	2.6	3.2	2.8	1.0	2.8	0.8	1.0	4.0	4.2	63.1	18		
	53	都城工業C	39.5	10.0	1.6	1.0	1.0	3.2	4.0	1.0	2.9	1.4	0.8	2.3	1.2	1.0	4.5	3.7	79.1	12		
	54	都城工業D	35.6	8.5	1.2	0.6	0.8	2.3	3.5	0.4	1.9	1.7	0.8	2.3	0.8	1.4	4.0	3.7	69.5	15		
	55	都城工業E	6.8	9.5	2.1	1.0	0.8	2.6	3.0	1.2	2.5	2.2	0.8	2.0	1.2	0.8	3.5	3.2	43.1			オープン
	56	都城工業F	33.6	9.5	2.1	1.0	0.8	2.9	4.0	2.0	2.7	2.0	0.6	1.8	0.8	1.2	2.5	4.2	71.7	14		
	57	都城工業G	20.0	9.0	1.7	1.0	1.0	3.2	3.5	2.0	2.2	2.4	0.6	1.8	0.8	2.0	1.0	5.0	57.2	19		
	61	小林A	34.2	9.0	2.6	0.6	0.0	3.5	5.0	1.2	2.6	2.4	0.6	3.5	1.2	0.8	7.5	3.0	77.7	13		
62	小林B	38.9	8.5	2.1	1.0	1.0	3.8	4.0	1.8	1.8	1.7	0.8	3.0	0.8	0.4	7.5	4.5	81.6	11	6		
71	都城西	40.0	10.0	3.0	1.0	0.4	4.7	5.0	2.0	3.6	2.1	0.6	3.3	0.0	1.6	8.0	4.2	89.5	8	4		
女子	101	延岡工業	0.0	7.0	1.7	0.8	0.0	0.0	5.0	0.0	1.0	1.2	0.4	0.0	0.0	0.0	4.0	4.5	25.6			オープン
	201	宮崎大宮A	40.0	10.0	2.6	1.0	0.8	4.7	5.0	3.0	3.5	2.8	0.8	3.8	1.6	2.0	8.5	5.0	95.1	1	1	
	401	都城泉ヶ丘	0.0	8.0	2.6	1.0	0.0	2.0	5.0	3.2	2.3	2.0	0.4	2.5	1.2	0.2	2.5	3.2	36.1			オープン
	601	小林	40.0	10.0	3.0	1.0	1.0	3.8	5.0	2.2	2.8	2.8	0.4	3.8	1.2	1.4	5.5	4.0	87.9	2	2	

令和4年度第49回宮崎県高等学校総合体育大会  
第65回宮崎県高等学校登山競技大会講評

### 全体講評

コロナウィルス感染症が広まって2年以上が経過し、ようやく感染症対策に配慮しながらフルスペックの大会が開催されました。この中で楽しく山行をできたのもここにいる方々だけでなく、皆さんの保護者の皆さんのご理解、高千穂山の会など山岳・クライミング連盟の方々のご協力、高千穂町の皆さんのご協力、さらに地元の宿で迎えてくれた旅館の方のおかげです。様々な方々に感謝しながら、仲間とともに山を楽しめたことを喜び大会の結びにしたいと思います。上位大会に進む皆さん、また3年生が引退して新たにチームを作る後輩の皆さん、この講評がこれからの山行に生きてくれることを切に願います。

加えて、この2年あまり入部しても思うように練習ができず、歯がゆい思いをした3年生の皆さん、これまでの山岳部生活どうだったでしょうか。皆さんの中にはもっとアウトドアに親しみたい、という人もいたことでしょう。これからの生涯にわたり、まだまだ山人生は終わりではありません。ぜひ、山でお会いしましょう！

### 体力・歩行

体力に関しては、ゴールしたほとんどのチームが制限時間内で行動することができました。ただし、チーム内で間が開いているチームがあり、ルール理解が進んでいないと感じました。チーム行動の時間だけではなく、チームワークを意識して行動してください。休憩の仕方やタイミングも工夫すると疲れにくいと思います。

歩行についてはロープに頼るチームが何チームも見られました。歩きがおぼつかず頼ったかもしれませんが、細いロープに全体重を預けるのは危険です。またパッキングバランスが悪く、自身のバランスを崩す選手がいました。自分の歩行技術を向上させるための歩荷練習などを積極的に行ってください。

### 装備

装備については団体装備がコンロ、虫刺され薬と湿布、ラジオ、修理具および裁縫用具を、個人装備がナイフ、ライター、寝袋について審査を行いました。絶縁については今回減点しませんでした。+極と一極を入れ替えて絶縁する不適切な絶縁が見られました。修理具については、リペアテープがあっても長い間まき直してなくて現在利用できないものもみられました。個人装備のライターは1つ1つ個別に防水しましょう。また、寝袋はビニールの口を開けた状態で保管しているものが多く、浸水の恐れがあります。しっかりと口を結んで防水をしましょう。

結束法の審査では、ダブルエイトノットおよびその末端処理、クローブヒッチの審査を行いました。ダブルエイトノットはよくできていたと思います。しかし、その末端処理に関しては課題の残るものとなりました。ダブルエイトノットなどの結束法そのものだけでなく、末端処理までおこなって確実なザイルワークを目指してください。

### 設営・撤収

設営については、今回1日目は風が強く設営しにくい状況でした。その影響で、設営が完全に終わっておらず、入り口のチャックが開いていたり、ハンマーやザックなど荷物が収納されていないチームが多かったように思います。2日目の審査では落ち着いて設営ができていましたが、雨や風に対する意識が低いチームが見られました。いかなる自然条件においても対応できる設営を意識し、時間内で設営できるよう練習しましょう。

撤収については概ねできているように感じましたが、一部のチームでペグ穴の埋め戻しをしていないチームがありました。撤収は原状回復が基本です。後に利用する人が気持ちよく使える状態にしましょう。

### 炊事

炊事中に軍手をしていないチームが多いように感じました。やけどの元になるだけでなく多くの危険性をはらむ行為でもあります。また、今回の炊事で目立ったのは自分のチームでなく他のチームに行き話しているチームが目立ちました。チームで炊事をするのがまず基本です。他チームをみるのはよいのですが、まず自分たちの行動に細心の注意を払い行動しましょう。

気になったのがパスタのゆで汁の処理です。山の中では自然浄化能力に限界があります。一般家庭とは違い、ゆで汁の有効活用も考えて、調理計画をしっかりと立ててくれるとさらによい大会になったのではと感じました。設営より2日目に側溝に残飯を流さないように注意しました。残念なことに、3日目にさらに残飯が増えており、設営で側溝のゴミさらいを実施しました。意識の低い特定のチームの行動かもしれませんが、全体が同じ目で見られます。今後は残飯をネットで漉しながら排水するなどの工夫を行い、同じことが絶対に起きないようにしてください。

### 気象

天気図は、令和4年5月13日、停滞前線が日本の南岸付近に停滞し、全国的に荒れた天気になった時の気象通報を出題しました。作図の練習を積んだチームは、完成度が全体に高いものがあり、練習の成果が十分に出ていました。

あとは枠外にある高気圧や低気圧を考慮した作図、等圧線が途切れているように見えないようななめらかな曲線の作図を心がけてください。完成度の低いチームはこれから気象通報を聞いてたくさん練習をし、顧問の先生に添削してもらうことが必要でしょう。なお、今回の気象通報では気象通報の自動読み上げアプリを利用しました。午後4時でなくても、前日までの気象通報の読み上げをしてくれる便利なアプリです。情報機器を活用し、より作図を効果的に練習できるようにしましょう。

気象知識に関しては、天気図の基本的な読み取り、低気圧や前線に特徴的に現れる雲の観天望気に関わる知識、作図に関する基本的な知識などについて幅広く審査を行いました。どのチームも概ねよく得点できていたと思います。

## 自然観察

自然観察テストは、大会山域の基本的な知識と地形図記号について問いました。今回、大会山域として利用した古祖母山系の古祖母山、障子岳、親父山の標高はもちろんのこと、主要な標高点について出題しました。この点数が低いチームは予報の読み込み・学習が足りなかったと反省し、事前学習をしっかりとしておくようにしておきましょう。地図記号は、その地域の植生や山地・山脈の境界性の理解など多くのことを伝える情報の一つです。記号の熟知に努めるとともに、下見登山など実際の登山の時に地点確認で利用してゆくとよいと思います。

## 計画書・記録書

計画書については、留守本部の記載、行動予定表の学校到着時刻の記載、概念図の縮尺の記載、断面図の2日目・古祖母コースの1426ピークの記載、断面図の3日目親父山コースの1526ピークの記載について審査しました。

概念図の縮尺については、縮尺そのものがなかったり、2万5千分の1地形図から作図して計画書に縮小したことを考慮した作図でなかったりと不十分なチームが多かったように思います。加えて断面図の主要ピークの記載がほとんどのチームでありませんでした。そもそも主要ピークとは、行動予定表並びに予報の太線などでマークのある地点のことを指します。これらをふまえ登山行動の見通しを立てることが、断面図作成の大きな意義です。

記録書については、行動2日目が尾平越登山口のメンバーの体調、古祖母山と障子岳の鞍部の通過時間、障子岳山頂の天候、親父山山頂の植生、ゴール地点の到着時間について審査しました。また、行動3日目は四季見原キャンプ場の出発時間、1469mピークの通過時間、1526mピークの天候、親父山の到着時間、親父山山頂におけるメンバーの体調の記載について審査しました。記載すべき主要地点については先ほど述べたとおりですが、記録書に書くのは読図のポイントフラッグの設置場所で書かないように（例：P1地点など）しましょう。

## 読図技術

地形図の読図ポイントを置く地点は、地形図上・そして地形観察上特徴があるので設定しています。逆にいえば地形図上・地形観察上特徴のないところには読図ポイントは置かないということになります。明瞭な尾根・谷、山頂などのピーク、鞍部、分岐などはその例です。以上のことを踏まえ、読図に臨んでください。また、書き方が不明瞭だったり、コースに直角にポイントの線を引いていないなどルールの理解が進んでいないチームもありました。GPSがなくともアナログで地点確認ができるよう、下見登山などに臨んでください。

## 救急

救急テストにおいては救急医療の基礎知識である3SABCDEの知識、脱水・熱中症の症状および対処、低体温症や身近なトラブルに関する知識について出題しました。点数が低いのが3SABCDEの項目でした。登山行動中という救急医療が届きにくい現場では、その場にいる登山者が適切に一次救急を行うことで症状悪化の防止、事後の治癒・回復の差が出てきます。救急の基礎知識を持って山の行動に臨むとより安全な登山になることでしょう。

実技審査については膝の処置を審査しました。本来は手当する場所に直接三角巾を当てるのではなく、ガーゼで患部を保護しなければなりません。直接接触したり、ゆるく締めていたチームが多かったように思います。相手への声かけや適切な本結びが出来ていない、また三角巾を地面につけて処置するチームも多かったようです。最低畳三角巾は衛生的かつしっかりとたためるようにし、すぐに使える技術として活用できるよう実技講習などを受けていきましょう。

## マナー

今回はザックの置き方や集合時間の遅刻、就寝時間が守れていないなど初歩的なマナーが守られていないのが残念でした。明日のための今日の行動、皆への配慮は自分たちを守ることにつながることを意識し、マナーアップ向上の意識を持って大会に臨んでください。